

## 調査地区の写真



☆信大信1 渡部橋 左岸 3.2~3.4km (渡部橋より下流方向を望む)

本調査地区は渡部橋付近にあり、河川形態はBc型である。全体的に流れが遅く、水深が大きいトロの様な形態を示す。河床材料は粘土・シルトである。河道は複断面であり、高水敷は耕作地として利用されている。低水敷にはヤナギ類が生育しているが抽水植物は少ない。堤内地は左右岸ともに耕作地や住宅地となっており、丘陵地が隣接している。

## 調査地区の写真



信信信1 馬越島 左岸 13.9~14.1km (旧黒川合流部より下流方向を望む)

本調査地区は馬越島の左岸側に旧黒川が流入する付近に位置している。河川形態はBc型で、全体的に流れが遅く水深が大きいトロの様な形態を示す。低水路の河岸付近の傾斜が急であるため、周辺の低水敷には抽水植物は少ない。堤内地は左右岸ともに耕作地や住宅地となっており、左岸側では丘陵地が隣接している。

## 調査地区の写真



☆信信信2 長岡大橋 右岸 27.0~27.3km (長岡大橋より上流方向を望む)

本調査地点は長岡大橋の上流に位置し、河川形態はBb-Bc移行型を示している。河道は複断面であり、右岸側の高水敷は河川公園として、左岸側は耕作地としてそれぞれ利用されている。低水敷には砂礫堆が発達し、O型淵やワンドが多数形成されている。堤内地は長岡の市街地となっている。

## 調査地区の写真



信信信3 五辺の水辺 左岸 38.5~40.0km (左岸堤防より上流方向を望む)

本調査地区は妙見堰下流左岸側に位置する大規模なワンドである。五辺の水辺は妙見堰建設に伴い河道が右岸側へ移動したことでできたワンドであり、止水域の魚類相を把握するために今回新規に調査地点として設定された。現在、周辺では公園整備が進められている。

左岸側の堤内地は耕作地および住宅地となっている。

## 調査地区の写真



信信信4 上片貝 左岸 48.2~48.7km (左岸より下流方向を望む)

本調査地区は魚野川合流点下流, 上片貝の蛇行部に位置しており、河川形態はBb型である。単断面河道であるが、左岸側に大規模な砂礫堆が形成されている。左岸側の堤内地は住宅地になっており、右岸側は山地が隣接している。

## 調査地区の写真



信信信5 栄橋 右岸 68.4~68.6km (右岸堤防より上流方向を望む)

本調査地区は宮中ダムの下流、魚野川合流点より上流に位置しており、河川形態はBb型である。河道は複断面であり、左岸側の高水敷は耕作地となっている。低水敷には砂礫堆が発達し、中洲も形成されている。砂礫堆の水際にはツルヨシの繁茂が認められる。堤内は耕作地や住宅地となっている。

# 調査地区の写真



☆信魚信1 大和橋 右岸 24.7~25.0km (右岸堤防より上流方向を望む)

本調査地区は大和橋付近に位置しており、河川形態はBb型である。河道は単断面であるが、左岸側に規模の大きな砂礫堆が形成されている。左岸側に八岡川が流入するが流量は少ない。平瀬にはバイクモの小規模群落が認められる。堤内地は耕作地となっている。

## 調査地区の写真



信信十1 小島 左岸 92.8~93.0km (左岸堤防より下流方向)

本調査地区は宮中ダムの上流に位置している。河川形態はBb型ないしはAa-Bb移行型と考えられる。単断面河道であるが、砂礫堆がよく発達しており、左岸側にはワンドも形成されている。堤内地は耕作地や住宅地となっている。



## 調査地区の写真



信魚六1 旭橋 その他 36.6~36.9km (旭橋より下流方向を望む)

本調査地区は旭橋付近に位置しており、河川形態はBb型である。河道は単断面であるが砂礫堆がよく発達しており、水際部にはツルヨシが密生しているところもある。右岸側には湧水の流入が見られ、ミクリやバイカモが繁茂している。堤内地は耕作地や住宅地となっている。